

6.6 Release Notes for EE

GroundWork Monitor 6.6 Enterpriseリリースノート

このドキュメントでは、GroundWork Monitor Enterprise 6.6リリースに関する重要な情報が含まれています。インストールを続行する前に、このドキュメントの関連セクションをお読みください。

GWMEE 6.6は、以前のバージョンからのアップグレードをサポートしていないことに注意してください。 次のリリース、6.6.1は、以前のバージョンからのアップグレード機能のある最新のリリースとなります。

このリリースでは、システムのパフォーマンス上の改善に焦点を当てています。パフォーマンスの向上は、次の3つのカテゴリに分類されます。

組み込みデータベースとしてPostgreSQLを使用

以前のGroundWork Monitorのリリースでは、デフォルトのデータベースとしてMySQLが含まれていました。今回のリリースより、Linux 64ビット対応の、より堅牢で、よりスケーラブルなデータベースPostgreSQLが使われています。この新しいデータベースで、私たちはパフォーマンスの向上と大規模なシステムの低負荷を実現しました。PostgreSQLには、多くのプログラミング言語のためのバックアップ、管理、およびライブラリのツールとユーティリティが付属しています。コマンドと通常のSQLは、MySQLに似ているのでPostgreSQLデータベースに慣れるまでの学習曲線を低減することができます。

デフォルトのシステム構成

デフォルトの "アウトオブボックス" の設定は、より良いスケーラビリティをサポートするように調整されており、最も一般的なユースケースのために最適化されています。デフォルト設定は以前のリリースから変更されて、次のようになっています。

レポートの要約パフォーマンス・データのストレージがオフになっています。EPRのレポートを使用するユーザに対してパフォーマンスデータのポストは、`/usr/local/groundwork/config/perfdata.properties` において以下の設定を変更することによって有効にすることができます。

```
<foundation_host localhost>
foundation_port = 4913
child_host = ""
send_RRD_data = true
send_perf_data = true
</foundation_host>
```


イベント前処理 は、Application Type Nagiosに対して有効になっています。イベント前処理は、操作のステータスのオープンのタイプの最新イベントのみを保持します。タイプの以前のイベントのOperation SatusがAcceptedにセットされます。イベントを処理するとき、この設定はデフォルトのビューを簡潔に保ち、ユーザビリティを向上します。イベント前処理は、`/usr/local/groundwork/config/foundation.properties` の項を調整することによって、無効化または変更することができます。

```
event.pre.process.enabled = true
event.pre.process.opstatus=ACCEPTED
```

オペレーティングシステムのサポートとフレームワーク

このリリースより、GroundWork Monitor EnterpriseはLinux 64で使えるようになります。以前に発表されていたLinux32のサポートは削除されました。

付随するJava 6 SDKのバージョンは、最新のバージョン1.6.29にアップグレードされました。Java 6は、パフォーマンスと同様に、セキュリティに関する多くの改良が含まれています。

 6.6のインストール手順は、Knowledge Baseに移動しました。そちらで見ることができます。

GroundWork Monitor Enterprise6.5に関して注意すべき最も重要なポイントは次のとおりです。

- MySQL 5.0 Serverデータベースを最新のPostgreSQL 9.1.1で置換え Upgraded
- Java SDKが最新のJava 6 version (1.6.29)に含まれる。
- 32bitシステムのサポートを廃止し、GWMEE 6.6より64bit Linuxシステムのみがサポートされる。(スタンドアロンのインストーラとVMwareアプライアンス)

内容

- 組込みのDBとしてPostgreSQLを使用
 - デフォルトのシステム設定
 - OSサポートとフレームワーク
- 内容
 - セクション 1- 前回リリースからの変更
 - パフォーマンスデータ対応
 - Cactiの改善
 - セクション 2- 6.5のリリースからの問題修正
 - セクション 3- 既知の問題点と制限
 - 制限とワークアラウンド
 - 6.6の重要な既知の問題点
 - セクション 4- バージョン6.6に関するアナウンス
 - セクション 5- 追加情報

セクション 1- 前回リリースからの変更

GroundWork Monitor Enterprise Release 6.6には、データベースの置換、およびJavaSDKの更新以外の新機能および拡張機能は含まれていません。いくつかの重要な問題が解決されています。

GWMEE 6.6は、以前のバージョンからのアップグレードをサポートしていないことに注意してください。

パフォーマンスデータ対応

影響を受けている人：すべてのユーザ

デフォルトでは、レポート用のパフォーマンスデータ ポスティングがオフになっています。

大量のデータを持つ大規模なシステム上でのパフォーマンスデータのポスティングは、データベース・サーバに大きな負荷を追加します。ユーザの大半は日常業務の中で、エンタープライズパフォーマンスレポート (EPR) を使用していないので、この機能はオフにすることができます。EPRの使用が必要であれば、次の設定を変更する必要があります。

次のファイルを編集し、以下に示すようにsend_perf_dataのプロパティをfalseからtrueへ変更

File: /usr/local/groundwork/config/perfdata.properties

```
<foundation_host localhost>
foundation_port = 4913
child_host = ""
send_RRD_data = true
send_perf_data = true
</foundation_host>
```

Cactiの改善

Cactiのデータベースは、以前のMySQLバージョンからPostgresに移植されています。この取り組みはCactiの機能維持のために広範で、且つ徹底されています。ポーティングの結果として、パフォーマンスは改善され、操作はより信頼性が増しています。

セクション 2- 6.5のリリースからの問題修正

このセクションでは、リリース6.4以降に修正されたマイナーな改善点をまとめています。GDMAの問題点はこのリストには含まれていません。

Key	Summary	Component/s
GWMON-10250	HostGroup ALLが選択されている場合は、Event Historyレポートにはイベントが表示されない。	Advance Reports
GWMON-10190	ライセンスが所定の場所がないときにライセンスビューアが壊れる。	License Key
GWMON-10151	6.2 から 6.4、またはそれ以降へのアップグレードで migrate-gw collagedb.sql が壊れる。	Installer
GWMON-10194	パフォーマンスデータを更新時のエラー	Feeder
GWMON-10228	確実にPostgreSQL を停止するためにはpostgres/scripts/ctl.shの変更が必要	Installer
GWMON-10205	Nagiosのリンクが、Firefoxでは表示されない。	Status Viewer

GWMON-10203	Host Group ポートレットフィルタリング機能が正しく動作しない。	Status Viewer
GWMON-10231	GWME 6.6のインストーラは以前のバージョンからのアップグレードを許可してはいけません。	Installer
GWMON-10248	Birt Log Reports が、svnreport_en.xml ファイルから削除後でも表示される。	Advance Reports
GWMON-10131	GUI インストーラのスライドは、新しいロゴ、メッセージを使用するように更新する必要があります。	Installer
GWMON-8575	log4jのLogging Levelsは、INFOからERRORに下げする必要があります。	Foundation JBoss Portal
GWMON-10134	新規インストーラのデフォルトのオプションとして、イベントの前処理を有効にする。	Console
GWMON-10204	Host ステータスレポートが "No status information available for this Host"を表示する。	Reports
GWMON-10236	インストーラが旧バージョンのfping_process.conf と廃止になったdevclean.plをインストールする。	Installer
GWMON-10238	UNIXソケットの使用をデフォルト設定するには、PostgreSQLのローカル接続が必要です。	Build Process
GWMON-10242	fping フィーダの config ファイルの権限を制約する必要があります。	Configuration
GWMON-7957	com.mysql.jdbc.exceptions.MySQLIntegrityConstraintViolationExceptionに関して、'MonitorStatusID'の列は " null " にすることはできません。	Foundation

セクション 3 -既知の問題点と制限

制限事項およびワークアラウンド

- GroundWork MonitorのSUSE9へのインストールでは、GroundWork Monitorのインストール後にcrond、postfix、ntp等の特定のサービスが正常に起動しない問題を示すかもしれません。これは、GroundWorkのインストール時にsyslog-ngと置き換えるsyslogサービスへの依存によるものです。以降のSUSE Linuxのバージョンでは、この問題は発生しません。SUSE9でこの問題を回避するには、syslogの依存関係を削除してこれらのサービスのinitスクリプトを編集します。例えば、/etc/init.d/cronを変更します。

```
# Required-Start: $remote_fs $syslog $time
```

上記より、以下に変更する。

```
# Required-Start: $remote_fs $time
```

- SafariとGoogle ChromeのようなWebKitベースのブラウザでは問題が発生する可能性があり、それによってURLがログイン後にアドレスバーで“ サイクル ”され、ポータルページが表示されません。ユーザがログインし、ブラウザウィンドウを閉じて、後で再接続する場合にはこれは時々見られる事象です。この問題が発生した場合は、ブラウザを停止して、フォームにURLを再入力します。

```
http(s)://servername/portal
```

通常、1つのセッションに対しては一回だけ行う必要があります

- GroundWorkのバックアップユーティリティ、/usr/local/groundwork/gw-backup-br204-linux-32 または /usr/local/groundwork/gw-backup-br204-linux-64は、GroundWork Monitor 6.5リリースに含まれています。ディスク上のバイナリのインストーラを起動し、既存のGroundWork 6.xのインストールのバックアップを作成するために使用することができます。このユーティリティはGroundWork Monitor 5.3をサポートしていませんが、インストーラはバックアップを作成するように求められたときにはバージョンを区別しません。もし5.3のインストールのバックアップを作成する必要がある場合は、このドキュメントの古いバージョンのバックアップセクションを参照してください。バックアップユーティリティを使用しようとすると、バックアップがハングアップしますので、これを “キル” しなくてはなりません。これはインストールには影響は与えないでしょうが、意図したとおりにバックアップは行いません。
- 自動検出において、NMAPのスキャン方式のOSマッチ機能は安定的ではありません。それは、ネットワークトラフィック条件とスキャンを実行するOSに基づいた結果にはかなりの変動があることが明らかです。この問題は、port-to-serviceや自動検出のサービスのプロファイルマッチング機能を使用することによって回避することができます。

6.6に関して既に認識されている重要な問題

Key	Summary	Components Involved

GWMON-9715	6.2からのアップグレードにより、サブメニューのアドバンストのページ停止の表示を行う。	JBoss Portal NMS - Cacti
GWMON-8529	Ubuntuのインストール時に、ステータスのアクションメニューでの断続的な表示の問題	Appliance
GWMON-9721	特定のセッションにおいて、あまりにも多くのウィンドウが同時に開いている場合は、Concurrent Viewsの制限のエラーが、インターフェイスに表示されます。	JBoss Portal
GWMON-9710	host contact_groupの割り当ては、割り当てがオーバーライドされていない場合でも行われます。	Advanced Reports
GWMON-9709	Blank Service Group Descriptionsは、コミット時に設定されています。	Configuration
GWMON-9700	すべてのホストがホストグループから削除された場合には、コミットは、ファウンデーション（ステータス）を事前設定することにフェイルする。	Configuration
GWMON-9692	例外のあるTime Periodは、nagiosでは正しく動作しません。	Nagios
GWMON-9689	カスタムレポートの作成のドキュメントに一貫性がない。	Documentation
GWMON-9638	MonarchCallout.pmのカスタマイズされたモジュールは、アップグレード時に置き換えられます。	Configuration
GWMON-9636	Cacti Host Profile Sync 自動化スキーマに、関係のないデータが含まれています。	Auto Discovery
GWMON-9628	「ctrl - + 」と「ctrl - - 」を使ってFirefox 3.6 のテキストサイズを変更する場合に、Status View のテキストがボックスサイズを超えてしまう。	Status Viewer
GWMON-9620	Cactiのグラフタイトルのいくつかは、「find_cacti_graphs」によって正しく解釈されていません。	NMS - Cacti
GWMON-9469	Cactiのユーザ作成は、テンプレートに沿ってユーザのゲストレベルのアクセス権を割り当てることがありません。	NMS
GWMON-9420	NTOPは、NMSのデフォルトのビルドでSSLをサポートしない。	NMS-NTOP
GWMON-9086	/u//g/scheduledreportsのnagiosのcronジョブを実行する際に、401 Unauthorized Authorizationはエラーメッセージの発行にフェイルしました。	Reports
GWMON-8820	Host Availability レポートは、（任意のホストグループに含まれていない_Hosts）ホストグループのレポートを表示しない。	Advanced Reports
GWMON-8709	Acknowledgedのアイコンが、悪い状態が認識された場合には表示されない。	Dashboards
GWMON-8702	MSPのロールの制限を有効にした状態で、MyGroundWorkダッシュボードを作成してSV ページにアクセスすると、ServiceとHost InfoのインスタンスはNagiosのスクリーンにリンクします。	My GroundWork
GWMON-8598	自動検出は、悪影響のないエラーをframework.logのログファイルに表示します。	Auto Discovery
GWMON-8313	StatusのEventPortletは、ホストとホストグループのNagiosのイベントのみを表示する。	JBoss Portal
GWMON-7838	5.3からのnagiosのビュー、「スケジューリングキュー、サーバステータス、ビューの設定ビュー」は、6.0では使用できません。	Nagios
GWMON-6678	Nediの自動Host-Importスキーマは、ホストのプロファイルが特定されていない場合にはフェイルします。	Auto Discovery
GWMON-6109	新規コンタクトグループは、割り当てられたホストグループのメンバーホストには関連付けされません。	Configuration
GWMON-5188	service_templates parent_idは、ジェネリックなサービステンプレートについて間違っていて設定されている。	Configuration
GWMON-5130	ホストグループへのサービスプロファイルの適用は、常に使用できない。	Configuration
GWMON-4815	自動検出は、snmpの検出方法からの複数のコミュニティストリングを正しく解析できません。	Auto Discovery
GWMON-9679	Cactiのホストネーミングは、余りに許容的で自動インポートは正常ではないネームの処理に失敗する。	Auto Discovery
GWMON-9641	かなり長いノート（メモ）は、正確に表示されません。（スクロールのコントロールがうまくできない）	Status Viewer

セクション 4 – バージョン 6.6に関するアナウンス

サポートされているGroundWorkのバージョン

以前に発表されたように、GroundWork Monitorのバージョン6.0および6.0.1は現在、サポート期間が終了しています。

これらのバージョンをご使用のお客様は、アップグレード・オプションに関してGroundWorkのサポート窓口に連絡することをお勧めします。

グラウンドモニタGround Monitorのバージョン6.1は、次のリリースでエンドオブライフになります。これらのバージョンをご使用のお客様は、この時点での移行を計画することをお勧めします。

サポートされているLinuxのバージョン

SUSE SLES 9.xをご使用のお客様には、このプラットフォームのサポートは今回のリリースで廃止されることをご報告いたします。Red Hat Enterprise Linux 6.xのバージョンのサポートは、このリリースにて提供されます。

サポートされているアーキテクチャ

このリリースより、GroundWorkはGroundWork Monitor Enterpriseの4ビットバージョンのみをサポートします。

サポートされているブラウザ

今回のバージョンは、Firefox 3&6、Google ChromeのV16、Internet Explorer 7、8、9でテストされています。

セクション 5 – 追加情報

ネットワークサービスについて

GroundWork Monitorのこのバージョンには、ネットワーク・サービス・コンポーネントが含まれています。このコンポーネントは以下の機能を提供します。

- ホーム画面で、ソフトウェアアップデートの通知をGroundWork Monitorの管理者に提供します。
- GroundWork Monitorのインストールに関してGroundWorkに環境の統計情報を提供します。
- 個々のGroundWork Monitorのインストールに関するライセンスキーのハッシュをGroundWork提供します。

ネットワークサービスは、HTTPS (TCPポート443) 経由でcheckforupdates.comドメイン内のサーバと12時間ごとに通信します。すべての通信は、GroundWork Monitor Enterpriseサーバによってキックされます。

GWOSに送信されるすべての情報セットは、次のとおりです。

- インストールされているGroundWork Monitor製品のタイプ (例えば、Community EditionまたはEnterprise Edition)、およびバージョンの種類を指定します。
- OSのベンダーとバージョン、および基本的なハードウェア情報 (RAM、CPU)
- 監視対象環境のサイズ: 構成されているデバイスとホスト、ホストグループ、サービスチェック、ユーザと使用されているサービスチェックの数
- ライセンスキーのハッシュ (チェックサム)

既存のGroundWork Monitor Enterpriseのインストール時にネットワークサービスを有効にする必要がある場合は、rootユーザとして次のバイナリを実行します。

```
/usr/local/groundwork/network-service/bin/network-service-manager.bin
```

Proxy Server Configuration プロキシサーバの設定

ネットワークサービスは、非透過プロキシが使用されている場合はアップデートを受信することはできません。プロキシ設定を変更するには次の手順を完了してください。

1. 製品をインストールし、インストール時にネットワークサービスを有効にしてください。
2. GroundWorkのサーバ上のセキュアシェルを使用してログインします。

```
cd /usr/local/groundwork/network-service/scripts/  
./network-service-ctl.sh stop  
cd /usr/local/groundwork/network-service/bin/
```

3. agent.conf ファイルを編集し、次の行を追加します。

```
proxy_host=xxx.yyy.zzz.www  
proxy_port=pppp
```

変更を保存します。

4. 次にネットワークサービスを再起動します。

```
./network-service-ctl.sh stop  
./network-service-ctl.sh start
```

Other trademarks, logos and service marks (each, a "Mark") used in GroundWork's products, including Nagios, which is a registered trademark of Ethan Galstad, are the property of other third parties. These Marks may not be used without the prior written consent of GroundWork Open Source or the third party that owns the respective Mark.